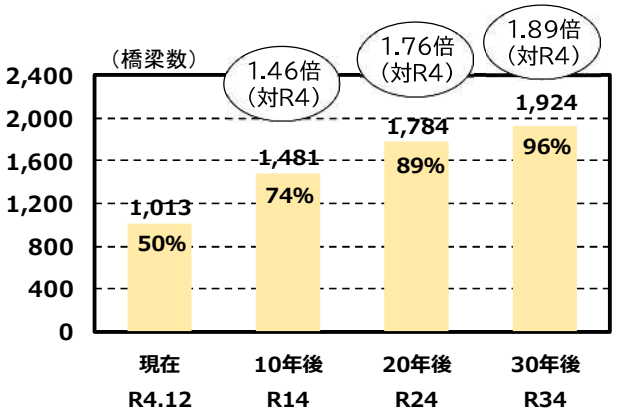
○ 老朽化が進む橋梁・トンネル等の道路施設

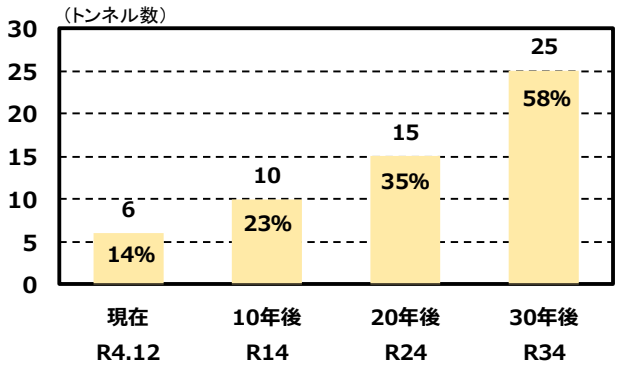
本市の橋梁は、1955年頃から1980年代にかけて、全体の約80%が建設されており、建設時期が集中しています。**建設後50年を経過するものは令和4年末時点で全体の50%**となっており、**10年後には約74%、20年後には約89%**とさらに高齢化率が大きくなり、維持補修が必要な橋梁がますます増加することが懸念されます。

本市のトンネルは、平成2年頃から平成17年頃にかけて、全体の約60%が建設されています。**建設後50年を経過するものは、令和4年末時点で全体の14%**ですが、**20年後には約35%、30年後には約58%**と急速に高齢化が進み、橋梁と同様に、維持管理費の増加が予想されます。

このため、老朽化した橋梁やトンネル等の道路施設について、施設毎の個別施設計画に基づき、効率的・効果的な維持・修繕に取り組んでいく必要があります。



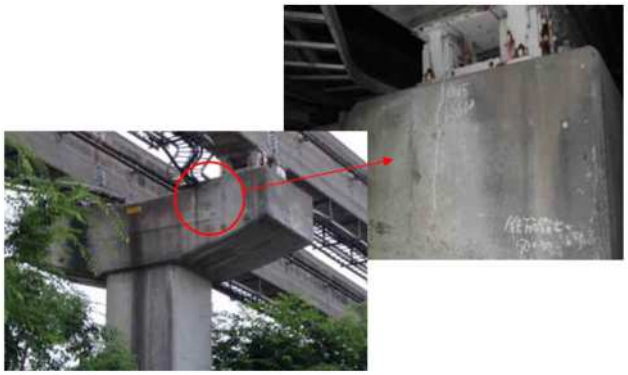
▲ 建設後50年を経過する橋梁数の推移



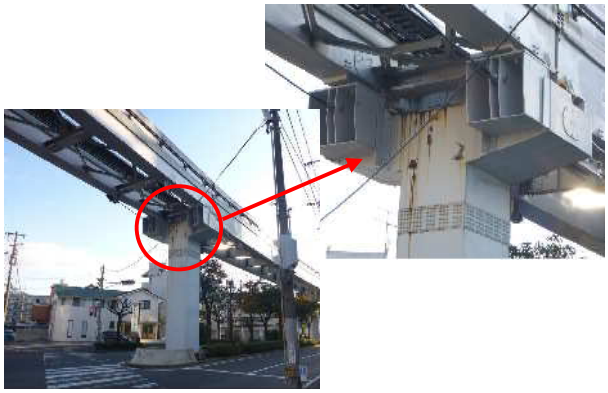
▲ 建設後50年を経過するトンネル数の推移

▲ 橋梁の劣化状況

▲ トンネルのひび割れ状況



▲ モノレール・RC支柱のひび割れ状況

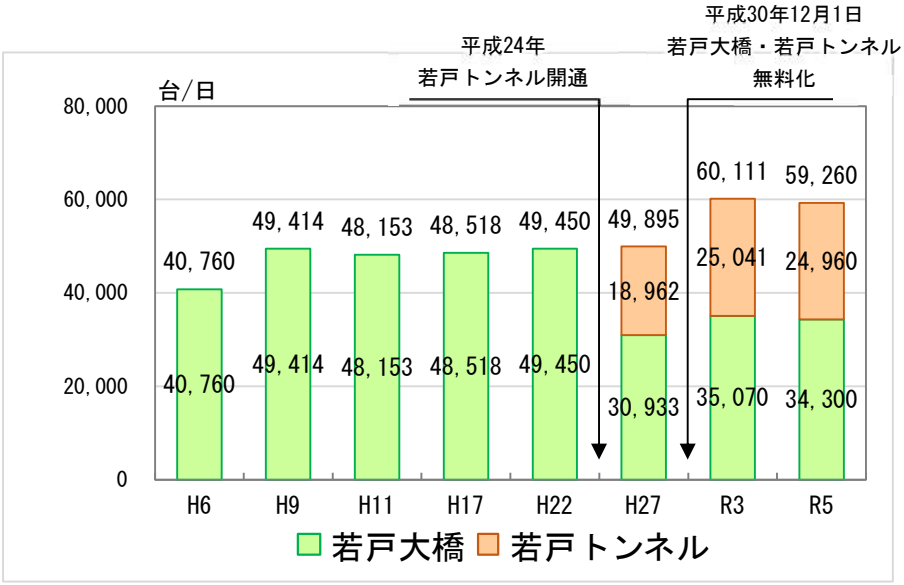


▲ モノレール・鋼製支柱の劣化状況

○ 若戸大橋･若戸トンネルの交通量増加

若戸大橋の交通量は、平成24年の若戸トンネル開通に伴い交通が分散され減少しています。また、平成30年12月の若戸大橋及び若戸トンネルの**無料化以降**は、この2路線を合わせた**交通量が約10,000台/日増加**しています。

さらに、若戸大橋は令和4年2月に国の重要文化財に指定され、同年3月には日本夜景遺産にも認定されるなど、観光面でも非常に重要な役割を担っています。



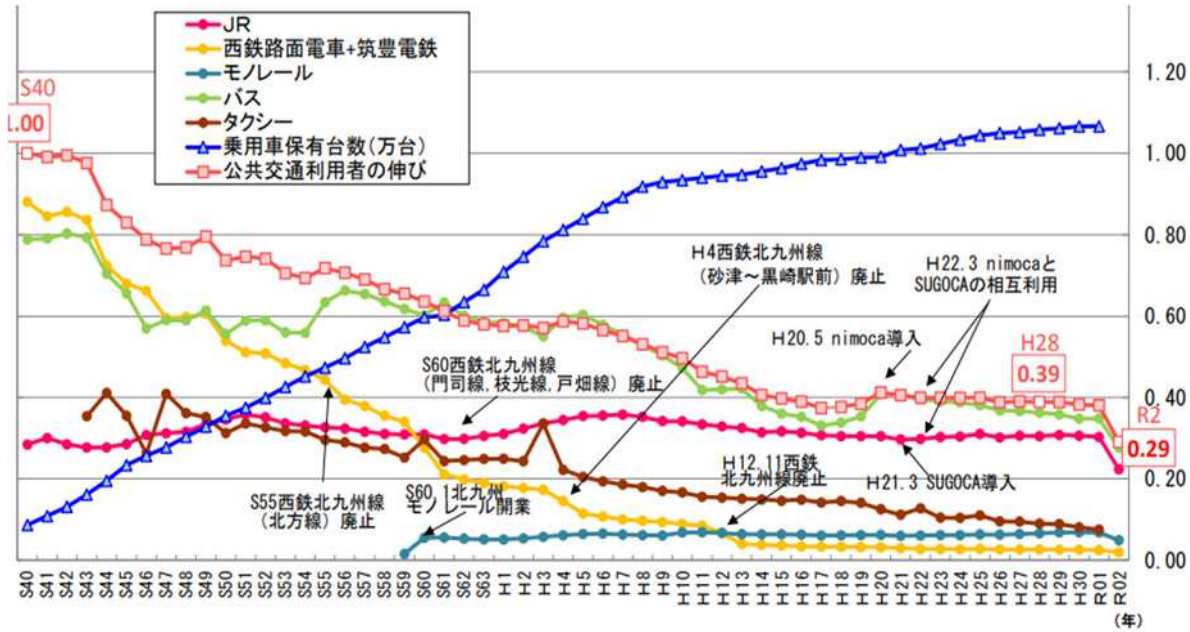
▲若戸大橋･若戸トンネルの交通量の推移

参照：H6～R3　全国道路・街路交通情勢調査
参照：R5　交通量調査

○ 公共交通利用者数の減少

昭和40年以降、乗用車保有台数の増加に伴い、公共交通利用者は年々減少しており、近年は、**昭和40年の約4割**の水準で横ばい傾向となっています。

今後、高齢化が進む中、市民の移動手段を確保していくためにも、公共交通の利便性向上を目指した取り組みを推進していく必要があります。

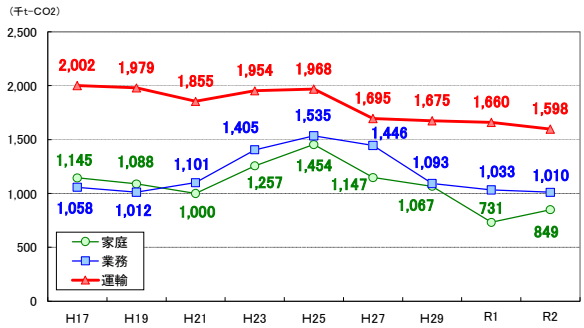


▲ 公共交通利用者の推移　　参照:北九州市統計年鑑

○ CO_2排出量と平均気温の状況

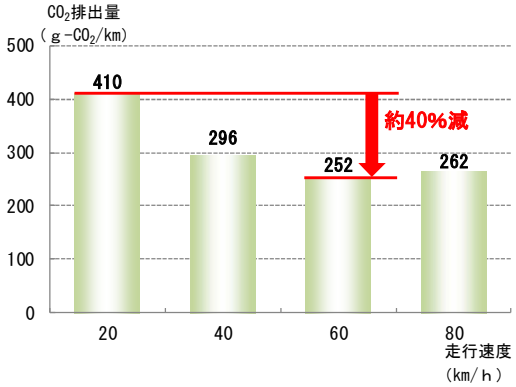
北九州市における部門別のCO_2の排出量の推移を見ると、**運輸部門（自動車、船舶等）のCO_2の排出量が最も多くなっています。**CO_2の排出は、自動車の走行速度と密接に関係しており、**走行速度60km/hがCO_2排出量が一番少ない**とされています。

また、北九州市の平均気温は年々上昇しており、**約50年間で約2℃上昇しています。**



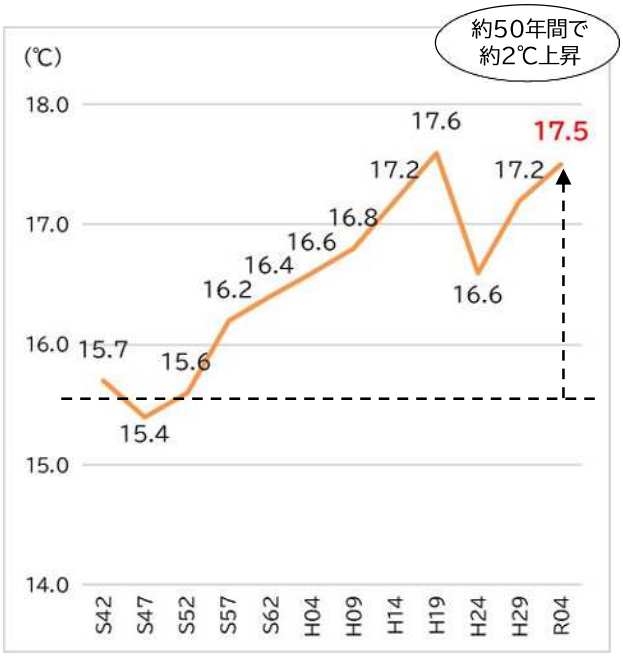
▲ 部門別二酸化炭素排出量の推移（北九州市）

出典：北九州市環境局グリーン成長推進課



▲ 走行速度とCO_2排出量の関係

出典：国土交通省



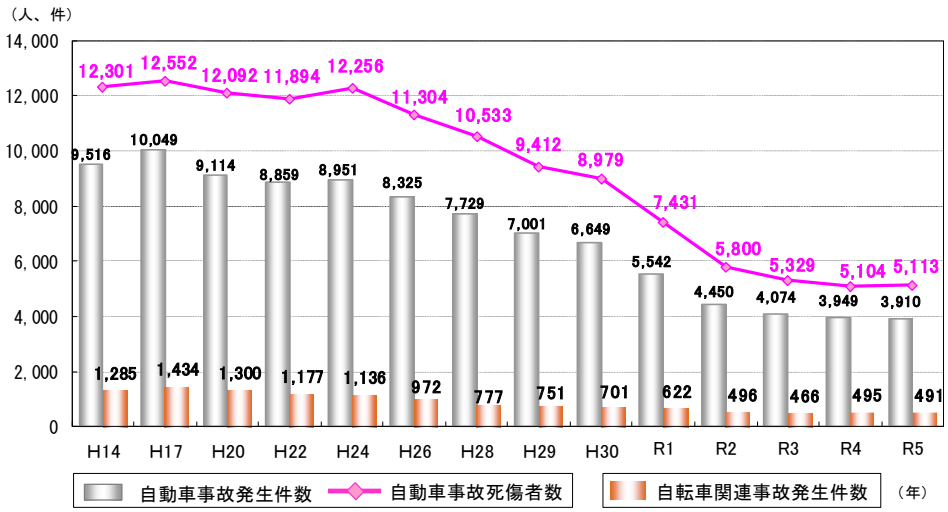
▲ 北九州市の平均気温

参照：北九州市統計データ

○ 年間4,000件の自動車事故、年間500件の自転車事故

自動車事故発生件数は平成24年から減少傾向にありますが、依然として、**年間4,000件程度の自動車事故が発生**しています。

また、自転車事故発生件数も減少傾向にありますが、**依然として、年間500件程度の自転車事故が発生**していますので、引き続き、警察と連携して、交通事故対策を行う必要があります。



▲ 交通事故発生件数と死傷者数の推移

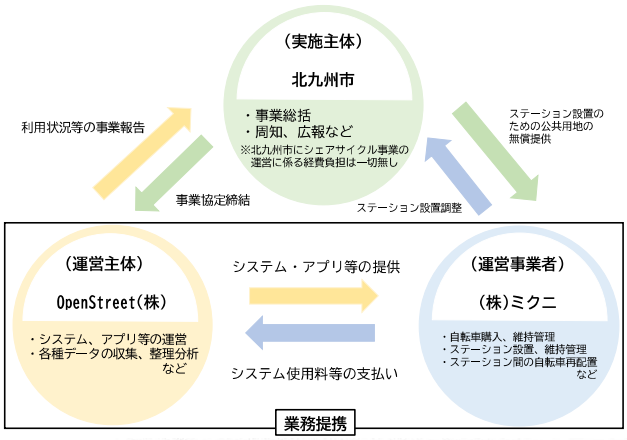
参照：北九州市統計データ

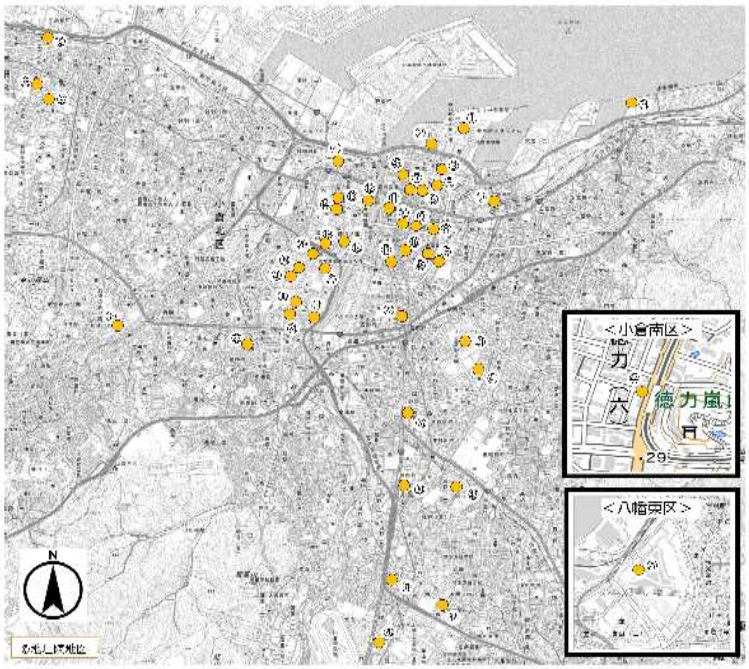
○ 北九州市シェアサイクル事業「ミクチャリ」

この事業は、通勤、通学、買い物、観光、ビジネスと多様な用途への活用が可能な交通サービスとして、令和3年10月にサービスを開始しました。

令和6年10月現在、市内46箇所（小倉北区、小倉南区、戸畑区、八幡東区）にステーションを設置しました。多くのステーションで、24時間いつでも、自転車を借りて、返すことができます。最寄りのステーションで自転車を借りて、勤務先や駅周辺のステーションで返却することもできます。今後もステーションを増設し、利便性の向上を図っていきます。

事業スキーム





▲シェアサイクル（ミクチャリ） ステーション位置図

○ 道路等損傷の市民通報件数

令和5年度の道路等損傷の市民通報件数は、市全体で13,629件となっています。

（件数）

門司区	小倉北区	小倉南区	若松区	八幡東区	八幡西区	戸畑区	市全体
1,568	2,358	3,157	1,806	1,070	3,380	290	13,629

※各区まちづくり整備課の環境整備事業の指示件数に、指示件数に関する市民要望の割合（令和6年3月実績）を乗じたもの。

▲令和5年度の道路等損傷の市民通報の件数について